

会期中の催し このほかにもイベントを計画中です。後日HPにてお知らせします。

- ① 記念講演会
「櫻谷の再評価
—その広がりと深まり—」
田島達也(京都市立芸術大学教授)
11月27日(日) 午後1時30分～3時
- ② 講演会
「木島櫻谷の生涯と山水画」
実方葉子(泉屋博古館学芸部長)
11月12日(土) 午後1時30分～3時
- ③ オウコク・トーク!
各回 午後2時～3時
11月16日(水) 椎野晃史(泉屋博古館東京学芸員)
12月1日(木) 実方葉子(泉屋博古館学芸部長)
12月10日(土) 野地耕一郎(泉屋博古館東京館長)

④ 「南陽院障壁画鑑賞会」

11月11日(金) 午前9時30分～11時
講師:奥村美佳(京都市立芸術大学准教授・日本画家)
ご案内:実方葉子(泉屋博古館学芸部長)

④ 会場:南陽院 / 定員20名 / 抽選予約制(受付期間10月4日午前11時から10月23日午後5時まで / 当館WEBサイトにて)
参加費1,000円(拝観料を含みます)

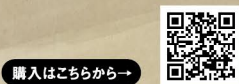
特別連携公開

南陽院本堂《木島櫻谷 山水障壁画》

2022年11月3日(木・祝)～11月13日(日)、11月23日(水・祝)～12月11日(日) ●月曜休

会場:南陽院 拝観料:一般1,000円 時間指定制 取扱:イープラス

京都市左京区南禅寺福地町
問合せ:ディーエーエヌジー(電話06-6850-7151 平日午前10時～午後5時)
泉屋博古館(電話075-771-6411)



購入はこちらから→

連携企画

京都市指定文化財
木島櫻谷旧邸特別公開

2022年11月3日(木・祝)～
12月4日(日)の土日祝
櫻谷が後半生を過ごした衣笠の邸宅。
櫻谷の色紙を一挙公開。作品や写真も展示。

会場:櫻谷文庫 入場料:600円
京都市北区等持院東町56
問合せ:櫻谷文庫(電話075-461-9395)



天井画制作120周年特別企画
「木島櫻谷の扇展」

2022年11月16日(水)～12月7日(水)
120年前、明治京都画壇48名に依頼した天井画を
今なお伝える老舗の店舗で、
櫻谷の扇子と扇面画を展示。

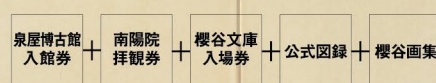
会場:宮脇賣扇庵 入場無料
京都市中京区六角通富小路東入ル大黒町80-3
問合せ:宮脇賣扇庵(電話075-221-0181)



周遊チケット(発売中～12月4日)

木島櫻谷 三館夢中プレミアムチケット

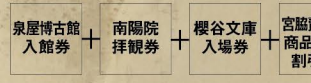
展覧会公式図録・『木島櫻谷画集(仮)[東京美術 11月刊行予定]』・
各施設入館券(南陽院・泉屋博古館・櫻谷文庫)が
セットになったプレミアムなデジタルチケット。



特別価格:6,100円 ネット購入のみ 購入はこちらから↑
取扱:イープラス

櫻谷三昧～ぐるっとアート連携チケット～

京都市内の木島櫻谷ゆかりの企画をラリー感覚でぐるっとめぐる
お得な紙チケット。各販売店で求め下さい。(限定3,000枚)



特別価格:2,200円 詳細はこちら↑
取扱:京都新聞文化センター、京都総合観光案内所、泉屋博古館、宮脇賣扇庵、大垣書店京都本店ほか
問合せ:京都新聞COM事業推進局(075-255-9757)

相互割引 京都東山 美術館さんぽ

本展の半券提示で下記展覧会の入館料が一般800円→700円になります。※ほかの割引と併用できません。

野村美術館 特別展「千利休生誕500年 利休茶の湯の継承」
前期:9月10日(土)～10月23日(日) 後期:10月25日(火)～12月11日(日)

泉屋博古館

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24
Tel. 075-771-6411 https://www.sen-oku.or.jp/kyoto

アクセス ●京都市バス5、93、203、204系統「東天王町」下車、東へ200m ●32系統「宮ノ前町」下車すぐ

BSフジ特別番組放映決定! 放送日などの詳細は後日HPで。

新型コロナウイルス感染症予防・拡散防止のため、予定を変更・中止する場合がございます。
当館のホームページ、Facebook、Twitter等で最新の情報をご確認ください。

《万葉烟霧》(部分) 明治43年 株式会社 千總

泉屋博古館

SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM

休館日:月曜日 開館時間:午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料:一般1,000円(800円)、高大生800円(640円)、中学生以下無料
●()内は20名以上団体料金 ●障がい者手帳ご提示のかたはご本人および同伴者一名まで無料です
●特別展・青銅器館両方ご覧いただけます
主催:公益財団法人 泉屋博古館、公益財団法人 櫻谷文庫、
BSフジ、ライブエグザム、京都新聞
後援:京都市、京都市教育委員会、京博連、公益社団法人 京都市観光協会
助成:令和4年度文化庁 Innovate MUSEUM事業

同時開催:青銅器館「中国青銅器の時代」

2022
11.3
[木・祝]
12.18
[日]

山

どこかでみた

水

どこにもない

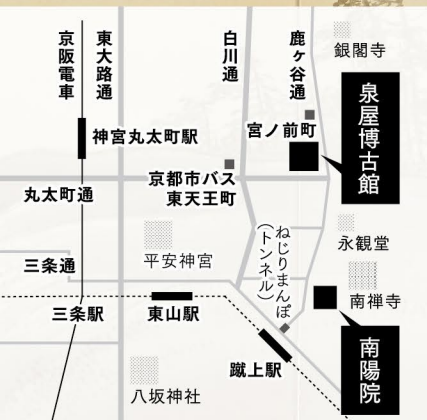
夢

中

Konoshima
Okoku
Lost in Sansui Painting

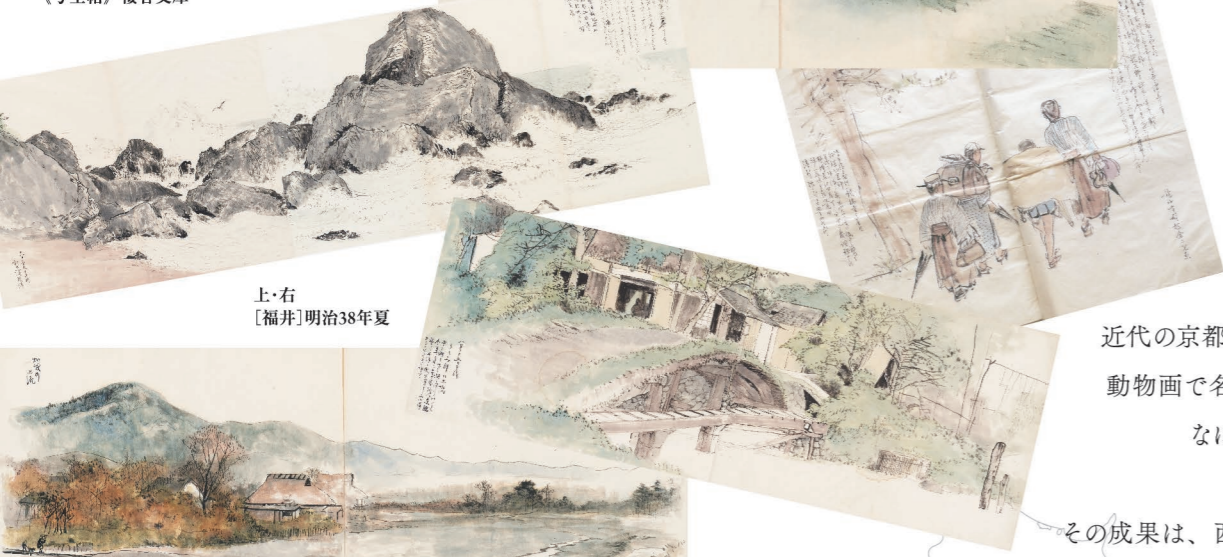
このしま
おうこく

特別連携公開
南陽院本堂
木島櫻谷
《山水障壁画》



ひたむきに歩いて描いた 青年櫻谷、感動の軌跡

《写生帖》櫻谷文庫



上・右
[福井]明治38年夏



[京都・加茂川]明治36年秋



[大分・耶馬溪]明治42年夏

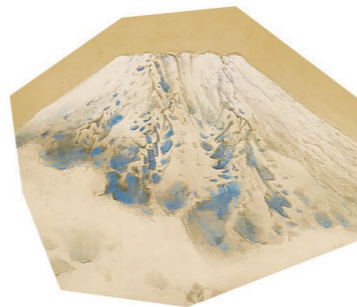


[京都・鞍馬貴船]明治39年冬
期間中、大幅な展示替があります。



櫻谷の
写生
マップ

[富士]明治41年夏



Lost in
Sansui Painting

近代の京都画壇を代表する存在として近年再評価が進む日本画家木島櫻谷（1877-1938）。
動物画で名を馳せた彼ですが、生涯山水画を描き続けたことも見逃すことはできません。

なにより写生を重んじた彼は、日々大原や貴船など京都近郊に足を運び、
また毎年数週間にわたる旅行で山海の景勝の写生を重ねました。

その成果は、西洋画の空間意識も取り入れた近代的で明澄な山水画を切り拓くこととなりました。

一方、幼い頃より漢詩に親しみ、また古画を愛した彼は、次第に

中華文人の理想世界を日本の風景に移し替えたような、親しみやすい新感覚の山水表現に至ります。

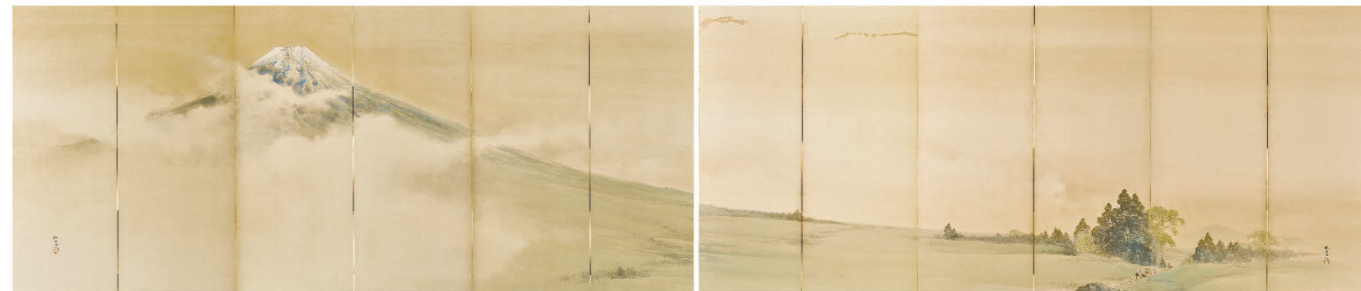
本展では屏風などの大作から日々を彩るさりげない掛物まで、櫻谷生涯の多彩な山水画を一望のもととし、

確かな画技に支えられた詩情豊かな世界をご紹介します。

あわせて画家の新鮮な感動を伝える数々の写生帖、青年期より収集し手元に置いて愛でた古典絵画なども紹介し、

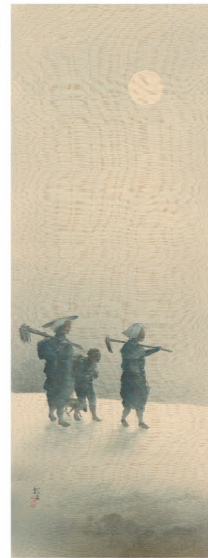
櫻谷の根底にあり続けた心の風景を探ります。

富士山麓はまるでバルビゾンの森?! 西洋画研究の跡もありそうです



《富士図屏風》明治 個人蔵
【展示期間:11/3~12/4】

《婦農図》
明治~大正
泉屋博古館東京
【展示期間:通期】



《幽溪秋色》
大正
泉屋博古館東京
【展示期間:11/17~12/18】



《画三昧》
昭和6年
櫻谷文庫
【展示期間:通期】



《寒月》
大正元年
京都市美術館
【展示期間:11/3~11/16】

「日暮れの鞍馬で
残雪に残る
獣の足跡をみた」
(櫻谷寒月(同書))

その幅11m超、 櫻谷山水画の 金字塔

《万壑烟霧》
明治43年
株式会社 千總
【展示期間:通期】



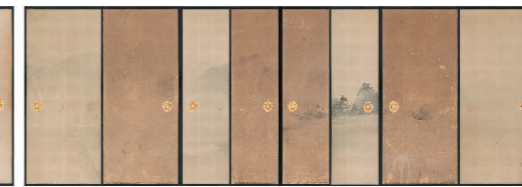
木島櫻谷 Konoshima Okoku 山水夢中

特別連携公開

南陽院本堂
《木島櫻谷 山水障壁画》

2022年 11月3日(木・祝)~11月13日(日)
11月23日(水・祝)~12月11日(日)

10時~17時(時間指定制) / 月曜休 / 拝観料: 1,000円(取扱:イープラス)
会場: 南陽院 京都市左京区南禅寺福地町 詳しくは裏面をご覧ください



明治43年(1910)作、5室50面にわたる障壁画は、高山峡谷、海浜に湖沼など、部屋ごとに水墨でみずみずしく描きあげた櫻谷34歳の知られざる大作。

